

平成 28 年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : パナソニック(株)、日本電信電話(株)、(国研)情報通信研究機構、パ
ナソニックソリューションテクノロジー(株)、(株)KDDI 研究所、(株)みらい
翻訳

研究開発課題 : グローバルコミュニケーション計画の推進 —多言語音声翻訳技
術の研究開発及び社会実証—
I. 多言語音声翻訳技術の研究開発

研究開発期間 : 平成 27 ~ 31 年度

代表研究責任者 : 石黒 敬三

■ 総合評価 : 適

(評価点 18 点 / 25 点中)

(総論)

今年度は、計画通りに順調に進んでおり、アウトカム目標の達成に向けて取組んでいる。

来年度は、当初計画から特に変更なく、計画を踏まえた妥当なものとなっている。

(コメント)

- 今年度は、計画通りに順調に進んでおり、アウトカム目標の達成に向けて取組んでいる。
- 来年度は、当初計画から特に変更なく、計画を踏まえた妥当なものとなっている。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

計画通りに順調に進んでいる。

実用上の課題に対応するカスタマイズ方法の確立を目指して欲しい。

(コメント)

- 社会実証用コーパスの収集など、ごく一部目標を上回る項目もあるが、ほぼ計画通り。
- 各種DB、アルゴリズム開発、実証実験等順調に進んでいる。
- 実際の実用上の課題に対応するカスタマイズ方法の確立を目指して欲しい。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

計画から特に変更なく、全般的に妥当である。

例えば、雑音、文字フォントについて、従来技術上でのデータ流用の可能性を考えて欲しい。

(コメント)

- 計画から特に変更なく進んでいる。
- 全般的に妥当な使用がなされている。
- 例えば、雑音、文字フォントについて、従来技術上でのデータ流用の可能性を考えて欲しい。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

当初計画から特に変更なく、計画を踏まえた妥当なものとなっている。

対象とする使用レベルの規定、使用者への教育を踏まえて、確立すべき商用化技術を明確にすることを心がけて欲しい。

(コメント)

- 当初計画から特に変更なく進んでいる。
- 本年度の計画を踏まえた妥当なものとなっている。
- 対象とする使用レベルの規定、使用者への教育を踏まえて、確立すべき商用化技術を明確にすることを心がけて欲しい。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

当初計画から特に変更なく、各目標に則した予算設定である。

音声翻訳・文字翻訳の商用化に直接つながる技術確立に向け、各技術精度目標に対してより合致した計画を心がけて欲しい。

(コメント)

- 当初計画から特に変更なく進んでいる。
- 各目標に則した予算設定と思われる。
- 音声翻訳・文字翻訳の商用化に直接つながる技術確立に向け、各技術精度目標に対してより合致した計画を心がけて欲しい。当初掲げた技術向上でも、常に見直しをすすめ、直接に関連しないものは勇気をもって中止も考えてよいと思う。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

ワーキンググループの設置により共同研究者間の連携が図られている。

平成27年度は要素技術開発に主眼がおかれ明確な連携の効果が得られているとは言い難い。平成28年度以降に期待したい。

プロジェクトの進展に伴いグループ横断的な連絡を緊密に行い、最終到達目標に対する意識確認を進めて欲しい。

(コメント)

- ワーキンググループ体制により共同研究者間の連携を図っている。ただし平成27年度は要素技術開発に主眼がおかれ明確な連携の効果が得られているとは言い難い。平成28年度以降に期待したい。
- 各技術内容、実験実施に申し分ない体制となっている。
- プロジェクトの進展に伴いグループ横断的な連絡を緊密に行い、最終到達目標に対する意識確認を進めてほしい。